

第6次白老町総合計画策定委員会（第3回）会議要旨

日 時：令和元年12月23日（月）13:30～15:00

場 所：白老町役場 第1委員会室

出席者：竹田委員長、古俣副委員長、安藤委員、高尾委員、大黒委員、下河委員、久保委員、
藤澤委員、川崎委員、有村委員、鈴木委員、谷野委員、中谷委員 13名

事務局：工藤課長、温井主幹、安藤主任、金子主事、吉井主事

1. 開 会

2. 報 告

（1）これまでの取り組み経過

○事務局から説明（資料1）

質疑なし

（2）町民参加プロセスの結果報告について

○事務局から説明（資料2）

質疑なし

3. 議 事

（1）第6次白老町総合計画（素案）について

○事務局から説明（資料3）

各委員からの意見等（別紙1参照）

※意見等については事務局にて検討し、反映させていく。

4. その他

※ 今後のスケジュール

5. 閉会

別紙1（第6次白老町総合計画（素案）について）

○総論・基本構想（案）について

【鈴木委員】

- ・将来目標人口の設定根拠を教えてください。

【事務局】

- ・現在策定中の第2期白老町まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンと整合性を合わせたものとしている。社人研の推計値（低位推計）をベースに総合戦略の人口減少対策分の人口を加算して算出している。

○基本計画（案）について

【中谷委員】

- ・前回に比べデザインが良くなり、見やすさが向上した。
- ・61ページの基本施策2－3子ども子育ての成果指標について、町民のライフスタイルやニーズに合わせた指標にした方が良いのではないかと。

【有村委員】

- ・47ページの基本施策1－7公共交通の成果指標について、目標値を倍増としているが、こういった理由で設定しているのか。

【事務局】

- ・今後、デマンドバスのサービスを拡充させる予定であるため、それを見越して目標値を設定している。

【古俣副委員長】

- ・目に見える形で評価を行うために成果指標を設定しているのだと思うが、他に測る方法はないものか。

【谷野委員】

- ・本計画は明るい未来を想定したものとなっている。しかし現実はまだ厳しくなるはずである。町民にもその危機感を共有しなければならないのではないかと。

【事務局】

- ・厳しい中でもどうすれば人口減少に歯止めをかけられるかということを重点に置いて策定している。また、今すぐではないが、コンパクトシティも意識したまちづくりについて、町民との共有を深めていければと考えている。

【安藤委員】

- ・成果指標は回数のみでは評価しにくいものもある。数字以外のほかの要素で測れるものはないのか。

【鈴木委員】

- ・他の市町村でも総合計画の策定に携わっているが、成果指標についてはどこのまちも指標設定に苦慮している。現状値や実績など数字を拾えるものしか設定しようがない。計画の実現に向けての中で、時代の趨勢をみて柔軟に修正する旨を追記した方が良い。

【有村委員】

- ・ 成果指標を測るため、わざわざ調査をしたりしなくても、役場の中で押さえられる指標を使えば良いと思う。
- ・ 59ページの基本施策2-2地域医療の成果指標について、救急患者受入件数1,000件を目標としているが、その意図は何か。

【久保委員】

- ・ 救急受入患者数については、今後ウポポイの影響による観光客の増加に伴って、救急患者数も増加することが見込まれるため、受け入れ態勢を整えるという意味で増加を目指している。